

中学校における英語によるフォニックス指導の実践(1)

－フォニックスルール導入の工夫とその成果－

堀江美智代*, 園元 恭子**

English Phonics Instruction in Japanese Junior High Schools(1)

－Effective Introduction of the Rules of Phonics and their Results－

Michiyo Horie* and Kyoko Sonomoto**

入門期にフォニックス指導を十分行うことで、生徒は英単語を自分で読み、書けるようになり、音読や文字指導における「つまずき」が少なくなると考えられる。グローバル社会で通用する英語コミュニケーション能力の基礎を養うためにも、中学校段階から発音と文字との関係をわかりやすく説明し、発音練習をしっかりと行うことが必要である。本稿では、鹿児島純心女子中学校（以下「純中」）で試みられている英語によるフォニックス指導の実際とその効果について検証する。まず、純中におけるフォニックス指導の実践事例を紹介する。次に、発音テストを実施した結果を検証し、最後に、質問紙調査の結果を分析する。検証の結果、発音テストに有意差が認められ、生徒たちは文字が正確に読めるようになったことがわかった。また、生徒たちは、英語で授業が行われていたにもかかわらず、フォニックスルールの説明をよく理解し、その肯定的な影響を多数認めており、フォニックス指導は、中学校入門期において大変効果的な指導法であることが実証された。

Key Words: 中学校, フォニックス, 英語で導入, 質問紙調査, 発音指導

(Received September 26, 2016)

1. はじめに

文部科学省（以下「文科省」）は、2012（平成24）年度から中学校における新学習指導要領を全面実施している。今回の改定では、小学校に外国語活動が導入され、音声面を中心としたコミュニケーションに対する積極的な態度等の一定の素地が育成されていることを踏まえ、中学校段階では、「聞くこと」、「話すこと」、に加え、「読むこと」、「書くこと」を明示することで、これら四つの技能をバランスよく総合的に育成することとしている。

一方全国の公立小学校では、高学年5、6年生を対象に、外国語活動（英語）が平成23年度より週1回年間35回導入されている。その目標は、「外国語を通じて、言語や文化について体験的

* 鹿児島純心女子短期大学英語科（〒890-8525 鹿児島市唐湊4丁目22番1号）

** 鹿児島純心女子中学校・高等学校（〒890-8522 鹿児島市唐湊4丁目22番2号）

に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う」ことである。「外国語でのコミュニケーションを体験させる際には、音声面を中心とし、アルファベットなどの文字や単語の取り扱いについては、児童の学習負担に配慮しつつ、音声によるコミュニケーションを補助するものとして用いること」とされている。発音と綴りとの関係については、中学校段階で扱うものとされており、小学校段階では取り扱うことにしていない。

小・中の円滑な接続を考えると、中学校では小学校で慣れ親しんだ音声と文字を関連づけるフォニックスの学習をまず取り入れ、文字と音との関係（ルール）を学習し身につけることが必要である。入門期にフォニックス指導を十分行うことで、生徒は英単語を自分で読み、書けるようになり、音読や文字指導における「つまずき」が少なくなるであろう。グローバル社会で通用する英語コミュニケーション能力の基礎を養うためにも、中学校段階から発音と文字との関係をわかりやすく説明し、発音練習をしっかり行うことが必要であると考えられる。本稿では、鹿児島純心女子中学校（以下「純中」）で試みられている英語によるフォニックス指導の実際とその効果について検証する。

2. 研究の背景

2.1 中学校における発音指導の現状

全国の中学校・高校の校長および英語教員5087名からの回答をまとめた報告「中高の英語指導に関する実態調査2015」（以下「ベネッセ2015」）によると、「発音練習」を「よく行う」中学校教員は78.6%、「ときどき行う」中学校教員は17.6%、合わせると96.2%の中学校教員が発音練習を行っている。しかし、それは単にCDや教員の後に繰り返して発音させるだけではないだろうか。音の違いや音と文字の関係（ルール）をわかりやすく説明し繰り返し練習させ、英語のリズムやイントネーションを意識して発話させている教員は少ないのではないだろうか。実際、「発音と綴りとの関連づけ」を「よく行う」中学校教員は25.0%、「ときどき行う」中学校教員は43.9%と「発音練習」に比べてかなり減少している。音読・文法指導・教科書のリスニングという活動に比べて、授業ではあまり実施されていない活動である。

日本語では、原則として、一文字に一音素が対応し、文字（ひらがなやカタカナ）の名前を覚えれば、その文字で書かれた日本語の単語や文を読めるようになる。ところが、英語では、文字と音素との対応が極めて複雑で、英語アルファベットの文字の名前を覚えても、書かれた単語や文を正しく読めることはほとんどない。

中学生が話している英語は、多くの場合、日本語の発音の特徴を多く残した「カタカナ発音」であり、その原因として授業時間数の不足や発音の指導を軽視し指導方法がわからない教員が多いことが挙げられている（手島，2011）。また、中学段階での発音指導がきわめて不十分で、英語の専任教員でさえ現場での発音指導には苦慮している実態が浮き彫りになっている（大塚・上田，2011）。

「ベネッセ2015」によると、生徒たちが「英語に対して苦手意識やつまずき」を感じる原因として教員が挙げた11項目の中で「とてもあてはまる」と答えた教員の割合が最も高かったの

は、「単語（発音・綴り・意味）を覚えるのが苦手」という回答だった（60.9%）。「文や文章を書くことが苦手」と答えている生徒も3番目に多い（57.2%）。つまり、一つ一つの単語を正しく読んだり綴ったりする大変さが、中学生の英語学習を困難にしていると言える。

2.2 フォニックスについて

フォニックスとは、音と綴りとの関係を教えることで読む力や発音力を高めようとする方法である。フォニックス指導にもいろいろな方法があるが、本稿では、松香（2000）の推奨するフォニックス教授法を用いた。これは、“synthetic phonics”（統合式フォニックス）にあたると思われる。この方法では、学習者は文字と音との関連を教えられ、その後明示的にそれぞれの音素をまぜて一つの単語を読むように指導を受ける。例えば、cupは/k/と/ʌ/と/p/という音を足し算して単語を読む。

松香（2000）は、日本人のためのフォニックス指導とその利点を次のようにまとめている。

- ① 発音を組織的に学ぶ
- ② 発音記号を使わない
- ③ 短期間で効果があがる
- ④ 規則性から入るので合理的
- ⑤ ファミリー語で英語のリズムを学ぶ
- ⑥ 一音節語を使ってしっかり原理をわからせる
- ⑦ 自主性を育てる
- ⑧ 外来語から入る
- ⑨ 日本語との違いをしっかりと説明
- ⑩ 印象に残ることをする
- ⑪ 先生のための最高の自己訓練

フォニックスでは、アルファベットの音を、文字、そして単語に結びつけて、一つ一つ学ぶ。発音記号もカタカナも介さず、英語の文字を音と結びつけて学び、正しい発音ができること、英語を読めるようになることを目指している。

MPIでは、「フォニックスを知ることで、中学校の英語の教科書をどれくらい読めるのか」という調査をしている。調査対象とした教科書は、平成18年度版のColumbus, Sunshine, One World, New Crown, Total English, New Horizonの1年から3年の教科書18冊で、『アメリカの子供が「英語を覚える」101の法則』に出てくるMPIのフォニックスルールを当てはめながら読んだ結果、平均して約70%を正しく読むことができた（松香、2008）。つまり、フォニックスルールを学べば、中学校の英語の教科書のおよそ7割を初見で正確に読むことができ、正しく書けるようになるといえる。英語とは大きく異なる日本語を母国語とする日本人が、フォニックスを学ぶことによって「英語の基礎づくり」ができると考えられる。

3. 研究の目的

本研究の目的は3つある。まず、長年にわたり純中で「英語によるフォニックス指導」を実

践している著者(園元)の指導方法を紹介することである。次に、その指導を受けた中学校1年生が、どの程度英単語が読めるようになったかを明らかにすることである。最後に、その成果を探るため、生徒に実施した質問紙調査の結果を分析し考察する。本稿では、フォニックスの4つのルール、Silent e, Polite vowels, Consonant digraphs, Vowel digraphsを扱った。

Silent eとは、母音字+子音字1つ+ e の場合、最後の e は、その前の母音字をアルファベットの名前通りの読み方に変え、e 自体は発音しないというルールである。最後につく「e」を発音しないので「Silent e」と呼ばれたり、前の母音字をアルファベットの名前読みに変える魔法の力があるので「Magic e」と呼ばれたりする。例えば、name, eve, time, note, cuteなどがあり、nameは [neim] と発音する。

Polite vowelsとは、母音字が2つ並んでいる時、1番目の母音字をアルファベットの名前読みして、2番目の母音字は読まないルールである。rain, May, eat, meet, key, pie, boat, snow, blue, suitなどがある。例えば、rainは [rein] と発音する。

Consonant digraphsは、2つの子音字の組み合わせが新しい1音になるルールである。shop, chime, phone, whale, math, this, ticket, longなどがある。例えば、p と h がくっついて [f] という音になり、phoneは [foun] と発音する。

Vowel digraphsは、2つの母音字の組み合わせ文字が新しい1音になるルールである。moon, book, sound, town, coin, toy, August, drawなどがある。例えば、o と w がくっついて [au] になり、townは [taun] と発音する。

4. 研究の方法

4.1 調査方法

平成28(2016)年度1学期に英語の授業を受けた純中1年生51名を対象に、発音(読み)のプレ及びポストテストを実施し、無記名で質問紙への回答を求めた。プレテストは、1文字1音グループ(フォニックスアルファベット)の導入終了後、Silent eのルールに入る前5月20日に実施した。ポストテストは、すべてのルールについての指導が終了した7月19日に行った。質問紙調査は、1学期の授業終了後7月16日に実施した。授業はビデオ録画し、著者は授業観察およびビデオ観察をした上で指導内容(実践事例1~4)をまとめた。

4.2 調査内容

読み(発音)のテストは事前と事後は同じ内容である。フォニックスの5つのルール、Short vowels, Silent e, Polite vowels, Consonant digraphs, Vowel digraphsが適用する10個の単語(下記の下線を引いた単語)を含む5つの文が提示され、生徒はそれらの文を音読する。

Short vowelsは既習のルールであり、それ以外の4つが未習のルールであるが、テストでは比較のため5つのルールを取り上げた。著者(園元)が、生徒を一人ずつ呼び出してインタビューテストを実施した。1つの単語につき1点、合計10点満点で著者が採点した。

1. I lift a big log. (Short vowels)
2. I hate my kite. (Silent e)

- 3. I see a snail and scream. (Polite vowels)
- 4. I put a photo on the bench. (Consonant digraphs)
- 5. I found milk and took a nap. (Vowel digraphs)

また、本稿では、実施した質問紙調査の中からフォニックスの授業の理解度やその効果等について回答する6つの質問項目を扱う。

4.3 平成28年度1学期の純中1年生の指導概要

平成28年度1学期の純中1年生の指導概要は以下に示すとおりである。その中で、毎時間15分程度のフォニックスの帯活動を行った。

中学1年生の導入期はまず、小学校の英語活動で学んだものを復習する形態を取りながら、『40時間でフォニックス Take off with Phonics Book 1, 2』をテキストとしてPhonics教授法を取り入れている。文字と音のルールを学び、ルールを活用しながら自分の力で読む、音を聞いてスペルを推測することができる力を養うことを大切にしている。さらに、推測した単語を辞書で調べ意味を確認することができるように辞書指導も行っている。単に未習の単語を読むだけでなく、徹底した音声指導も行う。音読カードを使い、自宅で保護者の前で読み、休み時間を利用して教師の前で読む。また、毎時間、出席番号順で簡単な英語の質問（日付、曜日、時間、天候、欠席者など）をクラスにするなど人前で発話することに慣れさせる工夫をしている。

単語から文章へと広げ、英語独特のリズムとイントネーションを体に身につけさせるために、簡単な決まり文句を学ぶ。『やさしい英会話Pam and Ted 1言表現編』『英会話たいそう Dansinglish』『もっと英会話たいそう Dansinglish』などのMPI教材を取り入れている。また、『QA-100指導用カード』を使い、中学3年間で学ぶ文法を含んだ様々なパターンの質問文とそれに対する適切な答え方を身に付け、即答力をつけることを徹底している。このQA-100の活動が、のちの文法理解のための導入となっている。7月には校内の暗唱大会を開催しているため、フォニックスのルールを意識した課題文を選び、6月中旬より毎時間練習している。

4.4 実践事例1 Silent e (サイレント e)

Silent eの導入及び練習に関する帯活動の指導案は以下に示すとおりである。各実践事例の中で、MPIのデジタル教材『This is Phonics デジタル版』（2014）を活用し、ルール導入後、確認のためにルールのStory（約1分）を視聴させた。

時	時間	学習活動	指導上の留意点
第一時	2分	1. フォニックスアルファベット	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の口元をしっかりと見て、正しい口の開け方、舌の位置、唇・歯の使い方を行っているかを確認する。 ・正確な音でない場合はその場で止めて、正しい口の開け方などを指導する。 ・必要に応じて大型の歯型、舌の形をしたミトンを使って舌の位置を示す。さらに各自に配布している鏡で確認させる。 ・リズムを意識させてメトロノームを使って読ませる。速度を少しずつ速めていく。

	3分 10分	2. Short vowelsを含んだ3文字の単語を使った文章を読む。 3. Silent eの導入	<ul style="list-style-type: none"> 既習のShort vowelsを含んだ3文字の単語と絵が描かれたカードを見せる (図1)。母音字+子音字1つ+eの場合、母音字は、アルファベットの名前通りの読み方に変わりe自体は発音しないというルールを、生徒自身が発見できるように教材と話術を工夫する。最後のeを発音しないよう口を押えるジェスチャーで読まない事を意識させる。 母音は赤、有声音は緑、無声音は黄色とカラーでわかりやすく単語を分類して、同じルールの単語を紹介する (図2)。
第二時	2分 2分 11分	1. フォニックスアルファベット 2. Silent eのルール確認 3. Silent eを含んだ単語を読む。	<p>(第1時と同じ)</p> <ul style="list-style-type: none"> MPIのデジタル教材でルールのStoryを視聴しSilent eのルールを思い出させる。 自作のパワーポイントを使い、再度ルールの確認をさせ、正しく単語を読んでいるか確認する。 Take off with Phonics Book 1 (以下Book 1) のp.33の単語20個をまずはペアで一緒に確認させる。次に、クラス全体でCDのリズムに合わせて単語を読ませる。
第三時	2分 3分 5分 5分	1. フォニックスアルファベット 2. Silent eを含んだ単語を読む。 3. パワーポイントで作成したShort vowelsとSilent eを比較した単語 (図3) を読む。 4. 聞き取り	<p>(第1時と同じ)</p> <ul style="list-style-type: none"> Book 1(p.33)の単語20個をCDのリズムに乗って読ませる。自分の力でしっかりと読んでいるかを確認する。 can→cane pin→pineなど瞬時に読み替えることができるかを確認する (図3)。 Book 1のp.36の単語を教師が読み、Silent eのルール (適切な母音とeの組み合わせ) に丸をつけさせる。 最初の2～3題はその場で解答を確認し、最後に全部正解した生徒を挙手で確認する。
第四時	2分 1分 2分 5分 5分	1. フォニックスアルファベット 2. Silent eルールとキーワード 3. 聞き取り 4. Silent eを含んだ文を読む。 5. Short vowelsとSilent eの含まれたfamily words (単語の語尾のスベリングと発音が同じ単語群) を読む。	<p>(第1時と同じ)</p> <ul style="list-style-type: none"> パワーポイントの自動スライド切り替え速度 (4秒に1単語表示) に合わせてルールとキーワードを言わせる。 Book 1のp.37の単語を1度聞かせ、発音された語を選ぶ。 ルールを意識し自分の力で読ませる。 メトロノームでリズムを取り読ませる。 メトロノームを使いながら3つのfamily wordsを読み、次の3つの単語の前に手を叩き、リズムよく読ませる。 少しずつ速度を上げていき、瞬時に読めるようにさせる。
第五時	2分 1分 2分 4分 5分 1分	1. フォニックスアルファベット 2. Silent eルールとキーワード 3. 聞き取り 4. Silent eを含んだ文を読む。 5. Short vowelsとSilent eの含まれたfamily wordsを読む。 6. Silent eを含む単語の意味を辞書で調べる宿題の提示	<p>(左記1～5は第4時と同じ)</p> <ul style="list-style-type: none"> しっかりと読みながら、辞書を引くことを伝える。

第六時	2分 1分 2分 3分 5分	1. フォニックスアルファベット 2. Silent e ルールとキーワード 3. Silent eを含んだ文を読む。 4. Short vowelsとSilent eの含まれたfamily wordを読む。 5. Silent eを含んだ物語の英文を読む。	(左記1~4は第4時と同じ) ・ Book 1のp.40,41の英文の中からSilent eを含む単語を見つけさせる。 ・ 例外の単語の発音を教える (find, oh)。 ・ 自分たちの力で読むように促し、しっかりと聞いて間違っている単語についてのみヒントを出す。 ・ 机間巡視をしながら、読めているかを確認し、読めない生徒をサポートする。
	2分	6. Silent eを含む単語の意味調べの宿題のチェック	・ 最初に初見でSilent eを含む単語を読ませて、ペアで意味を確認する。

4.5 実践事例2 Polite vowels (礼儀正しい母音)

Polite vowelsの導入及び練習に関する帯活動の指導案は以下に示すとおりである。

時	時間	学習活動	指導上の留意点
第一時	1分	1. フォニックスアルファベット	・ ペアでフォニックスアルファベットの音のみを交互に言わせる。
	1分	2. Silent e ルールとキーワード	・ 正確な音を覚えられるまでは定着を図るために毎時間言わせる。
	1分	3. 1つのアルファベットの音に特化した練習	・ リズムを変えながら、特定のフォニックスアルファベットと単語を読む (図4)。
	4分	4. Silent eを含む単語テスト	・ 絵を記載したテストプリントを配布し、教師が発音した単語を書くテストを実施する。 ・ 半母音のアルファベットを考えさせる。
	8分	5. Polite vowelsの導入	・ 心に残りやすいインパクトのある視覚教材を利用して導入する (図5)。母音字が2つ並んでいる時、1番目の母音字をアルファベットの名前読みして、2番目の母音字は読まないルールを自ら発見できるように工夫をする。 ・ テキストに掲載されていないが、よく耳にする単語を提示する (図6)。
第二時	1分	1. フォニックスアルファベット	(左記の1~3は第1時と同じ)
	1分	2. Silent e ルールとキーワード	
	1分	3. 1つのアルファベットの音に特化した練習。	
	3分	4. Polite vowelsのルールの確認と読み練習	・ MPIのデジタル教材でルールのStoryを視聴し、Polite vowelsのルールを思い出させる。 ・ 自作のパワーポイントを使い、再度ルールの確認をさせ、正しく単語を読んでいるか確認する。
	7分	5. Polite vowelsを含む単語練習	・ Book 1のp.45の単語20個をまずはペアで一緒に確認させて、CDのリズムに合わせて単語を読ませる。
	2分	6. ペアでルールの確認	・ ペアでじゃんけんして、負けた人がルールの説明をする。

第三時	1分	1. フォニックスアルファベット	(左記1～3は第1時と同じ)	
	1分	2. Silent e ルールとキーワード		
	1分	3. 1つのアルファベットの音に特化した練習		
	3分	4. Polite vowelsを含む単語練習		・ short vowelsには○, Silent eには○○, Polite vowelsには□の印をつける。
	6分	5. 分析リーディング		・ Book 1のp.49の単語を分析して上記の印をつける。 ・ 友達同士教えあうことを許可する。
	3分	6. Short vowelsとSilent e, Polite vowelsの含まれたfamily wordsを読む。		・ メトロノームを使い, 3つのfamily wordsを読み, 次の3つの単語の前に手を叩き, リズムよく読ませる。 ・ 少しずつ速度を上げていき, 瞬時に読めるようにさせる。
第四時	1分	1. フォニックスアルファベット	(左記1～3は第1時と同じ)	
	1分	2. 1つのアルファベットの音に特化した練習		
	1分	3. Silent e ルールとキーワード		
	5分	4. Polite vowelsルールとキーワード		・ 11個のルールを正確に覚えさせるために, 大きな声で何度も繰り返して言わせる。ペアで交互に覚えたかを確認させる。
	7分	5. 物語の英文からフォニックスのルールを含む単語を探す		・ Book 1のp.52,53の英文の中からPolite vowelsを含む単語を見つけさせる。
第五時	1分	1. フォニックスアルファベット	(左記1～3は第1時と同じ)	
	1分	2. 1つのアルファベットの音に特化した練習		
	1分	3. Silent e ルールとキーワード		
	1分	4. Polite vowelsルールとキーワード		・ パワーポイントの自動スライド切り替え速度(4秒に1単語表示)に合わせてルールとキーワードを言わせる。
	9分	5. 既習のフォニックスのルールが含まれた物語の英文を読む		・ 各自で自然なイントネーションで読めるまで, 何度も練習させる。 ・ 机間巡視しながら, 読めているかチェックすると同時に躰いている生徒に個人的にかかわる。
	2分	6. Polite vowelsを含む単語の意味を辞書で調べる宿題提示		

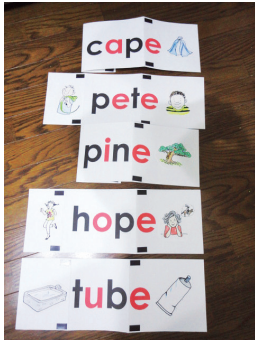


図1 Silent eの導入カード



図2 Silent eのルールが適用する単語グループ

Magic-E	
at	ate
can	cane
man	mane
pal	pale

Magic-E	
pin	pine
win	wine
hid	hide
dim	dime

Magic-E	
tub	tube
hop	hope
not	note
rod	rode

図3 Short vowelsとSilent eの単語読み替え

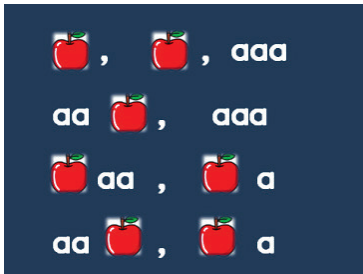


図4 フォニックス読みと単語のリズム読み (a-apple, s-sunの例)



図5 Polite vowelsの導入スライド



図6 Polite vowelsの11のルールと単語



図7 Consonant digraphsの導入, ルールと単語



図8 Consonant digraphsのルール確認スライド例



図9 Vowel digraphsの導入, ルールと単語



図10 Vowel digraphsのルール確認スライド例

4.6 実践事例3 Consonant digraphs (2文字子音)

Consonant digraphsの導入及び練習に関する帯活動の指導案は以下に示すとおりである。

時	時間	学習活動	指導上の留意点
第一時	1分	1. フォニックスアルファベット	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアでフォニックスアルファベットの音のみを交互に言わせる。 ・パワーポイントスライドの切り替え（4秒に1単語表示）の速さに合わせて大きな声でキーワードを発音させる。 ・絵を記載したテストプリントを配布し、教師が発音した単語を書くテストを実施する。 ・2つの子音字それぞれの音をまず確認する。エルモの絵を活用して、2つの子音字の音を表す口の形を見せ、その音を教師が発音する。インパクトのある視覚教材を利用して導入し、2つの子音字の組み合わせが新しい1音になるルールであることを印象づける（図7）。 ・テキストに掲載されていないが、よく耳にする単語を提示する。
	1分	2. Silent e ルールとキーワード	
	1分	3. Polite vowels ルールとキーワード	
	4分	4. Polite vowelsを含む単語テスト	
	8分	5. Consonant digraphsの導入	
第二時	1分	1. フォニックスアルファベット	(左記1～3は第1時と同じ) <ul style="list-style-type: none"> ・MPIのデジタル教材でルールのStoryを視聴しConsonant digraphsのルールを思い出させる。 ・自作のパワーポイントを使い、再度ルールの確認をさせ、正しく単語を読んでいるか確認する（図8）。 ・<i>Take off with Phonics Book 2</i>（以下Book 2）のp.3の単語20個をペアで一緒に確認させて、CDのリズムに合わせて単語を読ませる。 ・ペアでじゃんけんして、負けた人がルールの説明をする。
	1分	2. Silent e ルールとキーワード	
	1分	3. Polite vowelsルールとキーワード	
	3分	4. Consonant digraphsルールの確認	
	7分	5. Consonant digraphsを含む単語練習	
2分	6. ペアでルールの確認		
第三時	1分	1. フォニックスアルファベット	(左記1～3は第1時と同じ) <ul style="list-style-type: none"> ・ジェスチャーをつけてルールを覚えさせる。 ・ペアでじゃんけんして、負けた人から8つのConsonant Digraphsのルールとキーワードを言う。交代し繰り返す。 ・Book 2のp.6の単語thとs, shとs, lとrなどの違いをしっかり聞き取らせる。また、生徒同士で教師役をして、正しい発音かできているかを確認する。 ・メトロノームを使い、3つのfamily wordsを読み、次の3つの単語の前に手を叩き、リズムよく自分の力で読ませる。 ・少しずつ速度を上げていき、瞬時に読めるようにさせる。 ・ship-(pen)-nest が、音のしりとりであることを理解させ、宿題にする。
	1分	2. Silent e ルールとキーワード	
	1分	3. Polite vowelsルールとキーワード	
	3分	4. Consonant digraphsルールとキーワード	
	3分	5. 聞き取り	
	5分	6. Consonant digraphsを含むfamily wordsを読む。	
	2分	7. 音のしりとり宿題提示(Book 2 p.11)	

4.7 実践事例4 Vowel Digraphs (2文字母音)

Vowel digraphsの導入及び練習に関する帯活動の指導案は以下に示すとおりである。

時	時間	学習活動	指導上の留意点	
第一時	1分	1. フォニックスアルファベット	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントを使って、フォニックスジングルをテンポ良く唱えさせる。 ・マンネリ化して、音を疎かに発音しないように常に集中させる。ペアで音（フォニックスアルファベット）を交互に言う到着席するように指示する。座っても全員が着席するまで、繰り返し、音を言うように指示する。 ・絵を記載したテストプリントを配布し、教師が発音した単語を書くテストを実施する。 ・「Mr. OとMs. Oが結婚して生まれた赤ちゃんは、双子で一人はOO [u:]と泣き、もう一人はoo [u]と泣く」というように説明する。つまり、2つの母音が結びつくと、その子供の泣き声は特徴があることを絵カードと泣き声という視覚・聴覚教材を工夫し興味を持たせる。2つの母音字の組み合わせ文字が新しい1音になることを理解させる (図9)。 ・このルールが適用する単語をわかりやすく提示し読む (図9)。 	
	1分	2. Silent e ルールとキーワード		
	1分	3. Polite vowelsルールとキーワード		
	1分	4. Consonant digraphsルールとキーワード		
	4分	5. Consonant digraphsを含む単語テスト		
	7分	6. Vowel digraphsの導入		
第二時	1分	1. フォニックスアルファベット	(左記1~4は第1時と同じ)	
	1分	2. Silent e ルールとキーワード		
	1分	3. Polite vowelsルールとキーワード		
	1分	4. Consonant digraphsルールとキーワード		
	5分	5. Vowel digraphsのルールの確認		<ul style="list-style-type: none"> ・MPIのデジタル教材でルールのStoryを視聴し、Vowel digraphsのルールを思い出させる。
	4分	6. Vowel digraphsのルールを含む単語を読む。		<ul style="list-style-type: none"> ・自作のパワーポイント教材 (図10) を使い、再度ルールの確認をさせ、正しく単語を読んでいるか確認する。
	2分	7. ペアでルールの確認		<ul style="list-style-type: none"> ・Book 2のp.15の単語20個を初見で読ませる。
第三時	1分	1. フォニックスアルファベット	(左記1~4は第1時と同じ)	
	1分	2. Silent e ルールとキーワード		
	1分	3. Polite vowelsルールとキーワード		
	1分	4. Consonant digraphsルールとキーワード		
	1分	5. Vowel digraphsルールとキーワード		<ul style="list-style-type: none"> ・Vowel digraphsのルールを理解した上で、Book 2のp.19を開かせ、発音される単語に含まれるVowel digraphsのルールに○をつけさせる。
	3分	6. 聞き取り		<ul style="list-style-type: none"> ・特にOOの音は覚えにくいいため、意識させたい。
	3分	7. Vowel digraphsのルールを含む単語を読む。		<ul style="list-style-type: none"> ・CDのリズムに合わせて正確に読ませる。 ・友達同士教えあうことを許可する。
	4分	8. Vowel digraphsのルールが含まれたfamily wordを読む。		<ul style="list-style-type: none"> ・メトロノームを使い、3つのfamily wordsを読み、次の3つの単語の前に手を叩き、リズムよく読ませる。 ・少しずつ速度を上げていき、瞬時に読めるようにさせる。

第四時	1分	1. フォニックスアルファベット	(左記1～5は第3時と同じ)
	1分	2. Silent e ルールとキーワード	
	1分	3. Polite vowelsルールとキーワード	
	1分	4. Consonant digraphsルールとキーワード	
	1分	5. Vowel digraphsルールとキーワード	
	2分	6. Vowel digraphsのルールを含む単語を読む。	・CDのリズムに合わせて正確にキーワードを読ませる。
	8分	7. Vowel digraphsのルールを含む英文を読む。	・Vowel digraphsのルールを理解し、Book 2のp.22の英文を発音・リズム・イントネーションに注意しながら自分の力で読ませる。

5. 結果と考察

5.1 英単語の認識と発音

表1は、英単語の発音テストの結果である。プレテストとポストテストで点数に差があるかどうかについて t 検定を行ったところ、すべてにおいて統計的に有意な差が認められた ($p < .01$)。つまり、生徒たちは、フォニックスの授業を受けることでルールを理解し単語を正確に読めるようになったことがわかった。表1が示すように、すべてのセクションで平均が上がっている。ポストテストで一番平均が上昇したのは、「Silent e」の規則を用いて単語を発音するセクション(平均値の差が1.6)である。点数が上昇した順では、Consonant digraphsとPolite vowelsが1.28, 1.24で続く。Vowel digraphsはポストテストの平均値が一番低く(1.36)、伸びも少ないため(1.1)、これら5つのフォニックスルールの中では、1番定着が悪いといえる。一方、ローマ字読みでは「hate」は「ハテ」、「kite」は「キテ」と読み間違える生徒が多いのだが、「Silent e」の規則を習得したことにより82%の生徒が両方正しく発音できていた。

ポストテストの結果で平均点が最も高いのは、Short vowels (2.0) で全員が正確に発音できている。Short vowelsはプレテストの平均も高いが、これはフォニックスアルファベットの指導をすでに開始しており、その定着が見られていたためであり、さらにその後他のルールを導入する中でShort vowelsについての学習も定着したため、全員が2問とも正解するという結果になったと考えられる。ポストテストの平均点が次に高いのはConsonant digraphs (1.92) であり、正解率も94%とかなり高得点である。「photo, bench」が生徒にとって馴染み深い単語であったことが、94%という正解率に影響を与えているのかもしれない。合計では、プレテストで10問全問正解した生徒は1人(2%)しかいなかったが、ポストテストでは、19人(38%)に増えた。一方で、5問以下の正解しか得られなかった生徒が6人(12%)いることから、今後継続してフォニックスの指導は必要であると思われる。

表1 発音テストの結果

	Short vowels		Silent e		Polite vowels		Consonant digraphs		Vowel digraphs		合計 10点満点	
	Pre	Post	Pre	Post	Pre	Post	Pre	Post	Pre	Post	Pre	Post
人数	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50
平均	1.52	2	0.14	1.74	0.26	1.5	0.64	1.92	0.28	1.38	2.84	8.54
標準偏差	0.646	0	0.452	0.600	0.6	0.735	0.721	0.340	0.536	0.697	2.074	1.809
正解率	60	100	4	82	8	64	14	94	4	50	2	38
平均値の差	0.48		1.6		1.24		1.28		1.1		5.7	
t	-5.25		-16.17		-11.00		-11.96		-9.85		-19.44	

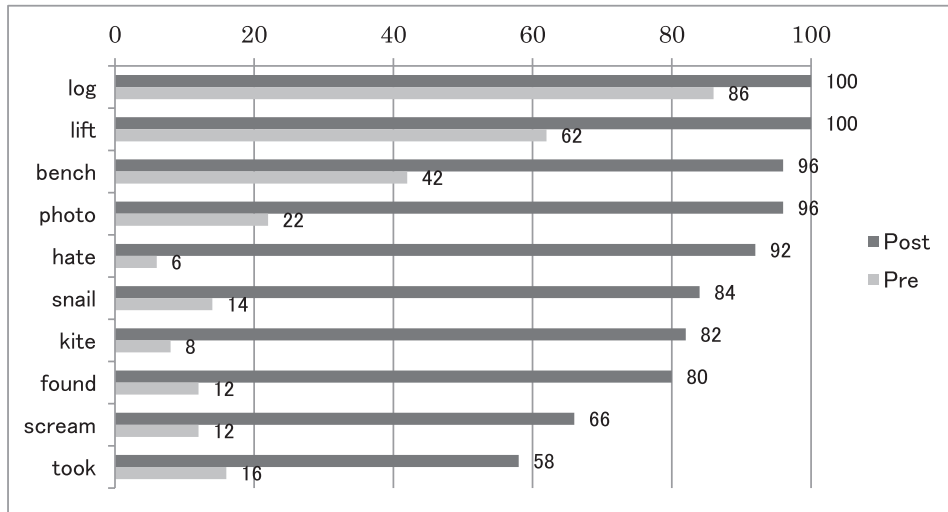
(注) 各セクションは2点満点で合計10点満点。正解率は、全問正解した比率 (%) を表す。欠席者1名を除く。

* $p < .01$

表2に単語別テスト結果、図11にプレ及びポストテストの単語別正解率を比較してある。ポストテストで正解率が高い順に、log/lift (100%), bench/photo (96%), hate (92%), snail (84%), kite (82%), found (80%) と続く。正解率が最も低かったのは、took (58%) である。正解率の伸びが最も高かったのは、hate (86%), kite (74%), photo (74%), snail (70%) である。Silent eの規則は理解しやすく定着も良かったことが推察できる。一方、tookはポストテストの正解率 (58%) も伸び (42%) も一番低い。これは、「O-O」の組み合わせは、[u:] と [u] という2つの読み方があり、took [tuk] を [tu:k] と読み間違えた生徒が多かったためである。一方、同じVowel digraphsのルールが適用するfoundの正解率は80%と高い。これは、指導者が「O-U」は、ローマ字読みをすると [ou] と間違いやすいが、[au] と発音することを繰り返し強調して指導した成果であろう。Vowel digraphsの定着が他のルールに比べて低いが、どの母音の組み合わせが理解しやすく発音しやすいかについては明らかではない。問題数が少ないため、今後問題数を増やした発音テストをすることで、母音の組み合わせにより定着に対する影響があるかどうかとも判明するかもしれない。

表2 単語別テスト結果 (N=50)

単語	Pre	Pre	Pre	Post	Post	Post	正解率の 伸び (%)
	平均	標準偏差	正解率 (%)	平均	標準偏差	正解率 (%)	
lift	0.62	0.069	62	1	0	100	38
log	0.86	0.050	86	1	0	100	14
hate	0.06	0.034	6	0.92	0.039	92	86
kite	0.08	0.039	8	0.82	0.055	82	74
snail	0.14	0.050	14	0.84	0.052	84	70
scream	0.12	0.046	12	0.66	0.068	66	54
photo	0.22	0.059	22	0.96	0.028	96	74
bench	0.42	0.071	42	0.96	0.028	96	54
found	0.12	0.046	12	0.8	0.058	80	68
took	0.16	0.052	16	0.58	0.071	58	42



(単位：%)

図11 プレ及びポストテストの単語別正解率

5.2 授業の理解度

表3は、フォニックスルールの説明のわかりやすさを示している。「フォニックスのルールについての導入や説明はわかりやすかったですか」という質問に対し、4つのどのルールも「とてもわかりやすい」と回答する生徒が75%を超えている。「まあわかりやすかった」を合わせると、9割以上の生徒が規則の導入や説明のわかりやすさを認めている。

表3 フォニックスルールの説明のわかりやすさ

	とてもわかりやすい	まあわかりやすかった	あまりわからなかった	まったくわからなかった	無回答
Silent e	44(86.3)	4(7.8)	2(3.9)	1(2.0)	0(0)
Polite Vowels	41(80.4)	6(11.8)	1(2.0)	1(2.0)	2(3.9)
Consonant Digraphs	42(82.4)	7(13.7)	0(0)	1(2.0)	1(2.0)
Vowel Digraphs	39(76.5)	9(17.6)	0(0)	1(2.0)	2(3.9)

合計N = 51 単位：人 (%)

図12は、フォニックスルールの理解度を示している。「フォニックスのルールをどれくらい理解していますか」という質問に対して、「ほとんどわかっている」と「70%くらいわかっている」を合わせると、7割5分以上の生徒がどのルールも理解していると回答している。このことから、英語で授業が行われたにもかかわらず、多くの生徒がルールを理解しているということがわかる。その中でも、「Silent e」の理解度が一番高く、「Polite vowels」と「Consonant digraphs」が続き、「Vowel digraphs」の理解度が一番低い。これは、発音テストの結果とも適合している。発音テストにおいても「Vowel digraphs」の正解率が一番低かったことから、理解度が低いルールは定着もあまり良くないと言える。

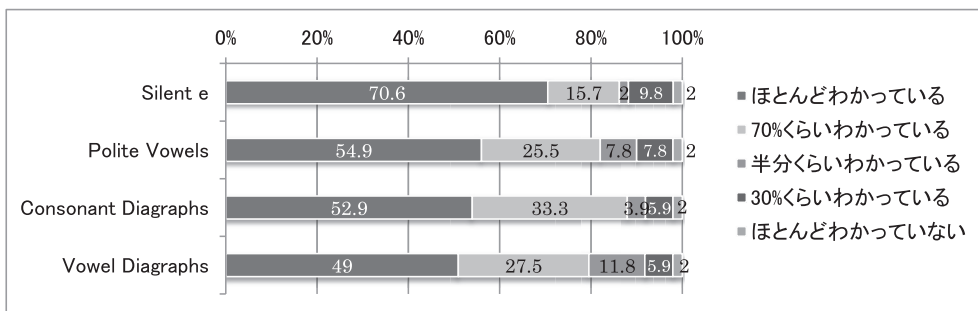


図12 フォニックスルールの理解度

5.3 フォニックス学習の楽しさと有益度

図13は、フォニックス学習の楽しさと有益度を示している。「フォニックスの活動は楽しいでしたか」という質問に対して、「とても楽しかった」と回答しているのは41人（80.4%）で、「あまり楽しくなかった」と答えた1人（2.0%）を除いて全員が楽しかったことを認めている。また、「フォニックスの学習は、どれくらい英語の学習に役立っていると思いますか」という問いに対して、「とても役立っている」が42人（82.4%）、「まあ役立っている」が9人（17.6%）であり、合わせると全員が有益であると認めている。

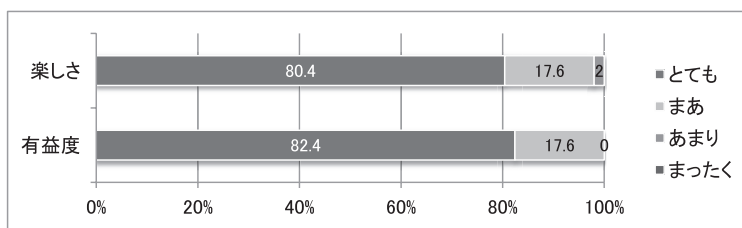
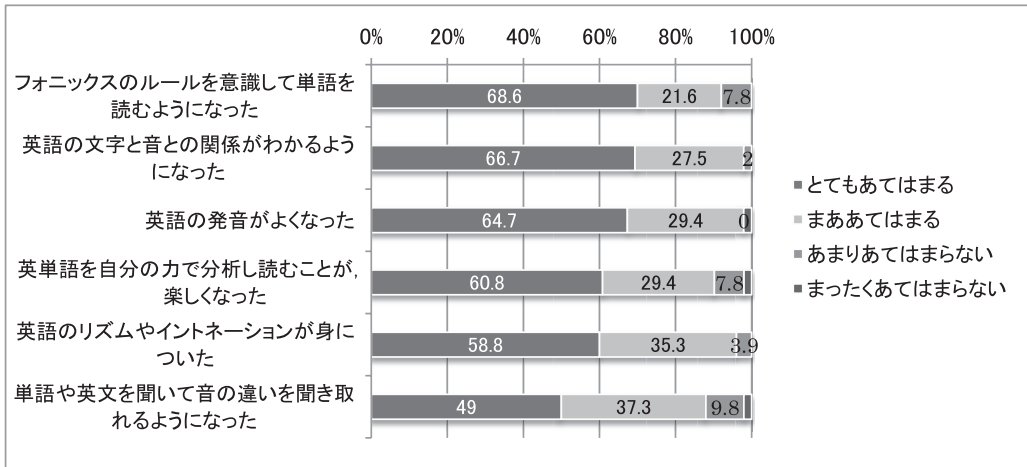


図13 フォニックス学習の楽しさと有益度

5.4 フォニックスの影響

図14は、フォニックスの影響を示している。「1学期のフォニックスの学習を終えて、どのような変化がありましたか」という質問に対して、「とてもあてはまる」という比率が高い順は、「フォニックスのルールを意識して単語を読むようになった」（68.6%）、「英語の文字と音との関係がわかるようになった」（66.7%）、「英語の発音が良くなった」（64.7%）、「英単語を自分の力で分析し読むことが楽しくなった」（60.8%）、「英語のリズムやイントネーションが身についた」（58.8%）である。一番低いのは、「単語や英文を聞いて音の違いを聞き取れるようになった」（49%）であるが、それでも5割の生徒が「とてもあてはまる」と回答している。「とてもあてはまる」と「まああてはまる」を合わせると、約9割以上の生徒がすべての項目において、フォニックスの肯定的な影響を認めている。



(注) 無回答が1名(2%)から2名(3.9%)いたが、グラフからは削除してある。

図14 フォニックスの影響

6. まとめ

本稿では、私立中学校における英語によるフォニックス指導について、その実践事例を紹介し、その効果について報告した。検証方法の一つとして、生徒の発音テストを実施した。プレテストとポストテストの点数に有意な差が認められ、生徒たちは、フォニックスの授業を受けることでルールを理解し単語を正確に読めるようになったことが実証された。また、質問紙調査を実施し分析することを試みた。結論として、英語で授業が行われたにもかかわらず、生徒たちはフォニックスルールの説明はわかりやすいと捉え、理解度も高いことがわかった。実際、フォニックスのルールを意識して単語を読むようになり、英語の発音・リズム・イントネーションが良くなったという肯定的な影響を多数認めている。このように、フォニックス指導は、中学校入門期において大変効果的な指導法であり、音と文字の関係(ルール)を学習することで、自分の力で読めるという自信を持たせることができ、さらに英語の世界を楽しむことができる自立した生徒を育てていくことが可能であると考えられる。

2020(平成32)年度を見据え、文部科学省は、小学校中学年から外国語活動を開始し、高学年においては外国語の4技能を扱う知識・技能を学び、教科として系統的な指導を行うことを求めている。今後、小学校で「読む」「書く」が導入される場合、小学校におけるフォニックス指導を検討していく必要がある。

参考文献

大塚朝美・上田洋子 2011. 「中学・高校での発音学習履歴と定着度－大学1年生へのチェック

シートと質問紙が示唆するもの-」『大阪女学院大学紀要』第8号, pp. 1-27.

手島良 2011. 「日本の中学校・高等学校における英語の音声教育について-発音指導の現状と課題-」『音声研究』第15巻第1号, pp. 31-43

ベネッセ教育総合研究所 2016. 「中高の英語指導に関する実態調査2015」

Available: <http://berd.benesse.jp/global/research/detail1.php?id=4776> [2016年8月]

松香フォニックス研究所 2011. 『やさしい英会話 Pam and Ted 1言表現編』 mpi.

松香洋子 1988. 『40時間でフォニックス Take off with Phonics Book 1』 mpi.

松香洋子 1988. 『40時間でフォニックス Take off with Phonics Book 2』 mpi.

松香洋子 2000. 『アメリカの子供が「英語を覚える」101の法則-日本人には目からウロコの発音術-』 講談社.

松香洋子 2000. 『英会話たいそう Dansinglish』 mpi.

松香洋子 2008. 『フォニックスってなんですか?』 mpi.

松香洋子 2011. 『QA-100指導用カード』 mpi.

松香洋子 2012. 『もっと英会話たいそう Dansinglish』 mpi.

松香洋子 2014. 『This is Phonics デジタル版 CD-ROM』 mpi.

文部科学省 2008. 『小学校学習指導要領解説 外国語活動編 平成20年8月』 東洋館出版.

文部科学省 2008. 『中学校学習指導要領解説 外国語編 平成20年9月』 開隆堂出版.

文部科学省 2015. 教育課程企画特別部会における論点整理について (報告)

Available: http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/sonota/1361117.htm [2016年8月]